
恋ノ神さま 南花音

沙茄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋ノ神さま 南花音

【Nコード】

N1855BA

【作者名】

沙茄

【あらすじ】

恋神と呼ばれる花音には秘密があった。彼女自身初恋もまだなかった！高2にもなっても恋愛経験ない彼女は流石に焦りはじめる…

登場人物（前書き）

初めまして、沙茄です

本当に初小説です…頑張ります（笑）

普段はラノベと恋愛小説を読んでいます…

…はい沙茄に関してはもういいですね…

読み苦しいですがどうぞ！

登場人物

登場人物

南花音

本作主人公。

ささなみ

漣高校二年生

恋神と言われるほど様々なカップルを作っているが、本人は恋をしたことがない

山田茜

漣高校二年生

花音とは親友、同じく恋をしたことがない

鳥貝武政

漣高校二年生

花音と幼なじみ

篠宮楓

漣高校二年生

武政の親友

柏原優那

漣高校一年生

梶野由里 里見水樹

花音のおかげでできたカップル

鈴木怜華

漣高校三年
生徒会長

雛菊奏太

漣高校三年

校内1のチャラ男

新庄ユキ

漣高校音楽教師

現在彼氏募集中

以上主な登場人物でした

登場人物（後書き）

登場人物のみです

絶対崩れます。気にしないでください…

どんな展開を望などあれば教えて欲しいです！お願いします！！

女友達と春休み…（前書き）

一発目です

あー見てくれる人いるのかが不安な沙茄です

これは別に私自身の春休みではないと思います…現段階では…

とりあえずお楽しみください！

女友達と春休み…

桜咲く春

…恋愛といえばこんな季節よね…恋神のあたしは一番忙しいのよ…
そう、あたしは恋神なのに…

「なんで女友達と春休みに過ごしてんのよおおっ！！！！！！！」

「花音落ち着けば？ウチらが初恋すらま…」
バシッ

「何すんの！？」

「んなこと…恋神のあたしに…あるわけ…あるからコンチクショ

！！！！！！」

「……………」

さつきから騒いでばっかのあたしを冷たい目で見つつ山田茜はオレ
ンジジュースを啜った

「…はあ」

あたしも諦めてジュースを啜る

あたし、南花音は高2にして初恋もまだ。ちなみに告られたことも
ないわけで…

ビジュアル？才能？別に足りないとは思わないわけ

ナルシストじゃないわ、事実だもの…

そうよ！今までは運がなかっただけよ！

「ね？茜？」

「ただのナルシストでしょ…妄想ただもれよ」

…ツンだなあー

ちなみに今春休みにも関わらずあたしの部屋で雑誌を読んでいるの
は山田茜、ショートカットでスラッとしてる綺麗系の女の子
見た目によらずバンドが好きでベースをやっている

この子もあたしと一緒に初恋も告られたこともない。しかし彼女いわく

「私はべ、別に興味なんか無いんだ！」

言ってるけど嘘だと思う…完璧嘘よね

「と、とにかく！来年こんなことをしなくてすむように高2デビューーよー！」

「わ、私は興味ないから巻き込むんじゃない！」

自分の部屋でこぶしをあげるあたしと慌てて否定する茜はあまりにも対象的だった

…そんなこんなであたしの高2が始まるうとした…こんな春休みはもうすごさないんだから！

女友達と春休み…（後書き）

作中のバンドは主にヴィジュアル系バンドです

これは私自身が好きなので出してみたかったですね（笑）

あとがき大変だなあ…

では次の更新で会いましょう！

…見てくれる人感想が欲しいです！お願いします！！

通学（前書き）

コンビニのおにぎりは美味しいですね、どうも沙茄です

もう三回目なのに難しく立ち止まっています（笑）

ではどうぞ

通学

「これでいつか」

あたし、南花音はいつもより気合いを入れた格好を見直した
膝上10センチちよっと着崩した制服、顔は軽く化粧して髪は緩く
まいたサイドテール

…これでどう考えてもイケてるわよね

ピンポーン

「花音 茜ちゃん来てるわよー」

「はい」

ママに言われて鞆を持って家を出る…前に

「行ってくるね、パパ」

写真に笑いかけ、

「行ってきます!」

外にでると茜は壁に寄り添って縦揺れしてた…いつみても危ない人
よね

「茜、おはよー」

「おはよ」

iPodを外した茜はあたしに反応した

「何聴いてたの?」

「the Gazetteのredって曲だけど」

「とりあえず外で縦揺れは止めようね?」

あたしは親友のために一応警告しておいた

「別にいいじゃん」

…あっさり無視しないで欲しいよ、親友

バスを乗って漣高校へ行く途中に幼なじみの鳥貝武政に会った

「お前今日……ど、どうしたんだっ？」

「気のせいよ、武政」

なぜか赤くなる武政、全くこの年になって寝坊で走ってきたのかしらね？

「……………」

茜、お願いだからバス内で鼻歌は止めて頂戴

「……やべー今日の……可愛い」

武政はケータイに向かってぼそぼそ言っている……ギャルゲーとかに手を出したのかしらね？我が幼なじみよ

とりあえずクラス替えの表を見る……

「花音、クラス同じらしいよ！！」

「良かったぁー！！」

ひとまず親友とハイタッチ

「花音、茜」

「……武政！！」

どうやら幼なじみとも同じクラスらしい

「たけ……速いよー」

ショートの小柄な子が武政の後ろを走ってきた……え？

「武政！？あんた彼女いたの！？」

あたしは何も考えず武政の首をつかんだ

「ち、ちげーよ楓は男だ！」

「下の名前で呼ぶとは……ん？男？」

パツとあたしは手を離れた。武政が倒れた気がするけど気にしないことにする

「楓君……なわけ？」

「花音、あなた改めて思うけど馬鹿よね？」

なっ……茜がツンすぎる

「ウチと同じ軽音楽部のボーカル篠宮楓君、一回会ったよ？」
言われて見れば会ったことがある気がする

「南さん…僕篠宮楓です。同じクラスだからよろしくね!!」

「…可愛いわー!!」

あたしはたまらず篠宮をなでる。可愛いすぎるんですもの!!

「おい、花音行くぞ」

「待ってよ茜!」

おいて行こうとする茜を慌ててあたしは追いかけた

…篠宮という可愛い子が同じなのでハッピーなあたしはおかしいのかしら?

続く

通学（後書き）

t h e G a z e t t E いいですねー

やっと次でクラスでの生活スタートですね…

もっとテンポよくいけるように頑張ります（<―>）

以上、沙茄でした

出会い（前書き）

ガキツカの録画をみながらゴロゴロしてる沙茄です

今時の高校生が分かりません

普段の中学生のクラスです、いっそ設定を変えようかな…

出会い

ガヤガヤ

あたし達4人（茜、武政、篠宮とあたし）が教室につくころにはほとんど席が埋まっていた

席は自由ぼかったからあたしと茜は隣に座った。

本当は篠宮の近くに行きたかったけど、まあ武政を使えばなんとかなるから今は保留ってことで

「あ、あの……／＼」

声がしたのでそちらを振り向くと1人の女の子

「????」

あたしが不思議そうな顔をしているのに気づいたのか

「由里です、梶野由里。去年、里見水樹君と付き合うために南さん

…恋神の力を借りたんですけど」

うん、誰だろ？まあいいや、先に進みなさい、私よ

「由里ちゃんか お久しぶりね 里見君とは順調なの？」

「あ、はい 南さんのおかげです！」

「良かったああ でも、もうあたしのこと花音でいいよ」

「え、いいんですか？由里も由里って呼んでください」

うん、とりあえず回避したみたいね…こんな事何度も続くとと思うと憂鬱すぎるわね…

「えー、恋神さま!？」

「嘘!？やった！」

「彼氏できるかも」

あたしの周りにクラス的女子が次々とやってくる…ちょっとめんどくさいかも…

「花音」

茜がすすつと寄ってきて

「三階のトイレの場所が分からないんだけど、ついてきてもらっていい？」

真顔であたしに尋ねた

「いいよ、あ、ごめんねーまた後でみんなのメアドとか教えて」

周りの女の子は別にいいよというのであたし達は教室を出た
教室では

「山田さんて天然入っててクールだと思ってたけど可愛い！」

という声がした…茜のファンクラブできそうだわ…そうそう忘れてた
「茜、ありがとう」

「別に…どういたしまして」

照れてそっぽを向く茜…あたしはニヤツとして

「三階のトイレはこっちょよ、茜」

「ご丁寧にどうも」

茜も笑ってトイレへ向かった

その後は始業式。校長の話起きてられるかしら…

出会い（後書き）

やだー花音お嬢様系になった

どんどん方向性が分かっていきます（笑）

では次にいきましょう（＾＾）ノ

高2（前書き）

良かった…見てくれる人がいた…涙を流す沙茄です

ありがとうございます！

なんか今回短いです
それでは！！

高2

「……………からよくきちんときを引き締めてやるように」

……終わった。ようやく終わった気がするわ……まったく

「南さん、移動よ？」

隣の笹羅さんがあたしに言う

「ありがと、話が長くて退屈だったわね」

「寝てたら感じないと思いますけれども」

……うつ 笹羅さんツンすぎる

茜と同じかそれより上よね

「反省してます」

「意外と分かりいいのね」

ヤバいです、ツンすぎるわ…

というよりもあたしのこと嫌いなのかしら？

ともあれクラスに戻りその日は軽く自己紹介をして終了

茜は軽音楽部の活動があり、あたしも呼び出されていたのでそちらへと向かう

「あなたがこれにくれた人かしら？」

呼び出されたのは体育館裏側

「はい」

そこにいたのは……………

高2（後書き）

いやぁ…誰なんでしょうかね？（笑）

知りませんよ！考えてませんもん！

軽音楽部のことをもっと書きたいです！はい！

それでは！！

あたしは恋神 (前書き)

眠いです…どうも沙茄です

明日から学校です (<|>)

更新率下がります。ごめんなさい

それでは！

あたしは恋神

あたしが会おうとしていた人。

それは…

「初めまして、鈴木怜華先輩」

黒髪のポニーテール、黒縁眼鏡で容姿端麗、成績優秀無敵の次期生徒会長様

正直どうして私なの！？ってとても思う…だけど相談しに来たわけだし…

「初めまして、恋神」

…一応あたし名前あるんだけどな…

先輩は続けて

「近くにユメハナっていうカフェがあるの、私が勿論おごるからそこで話していいかしら？恋神」

…だから恋神じゃないんだけど…名前

しかし、それをはっきり言うのは先輩に対して失礼なので

「はい、かまわないです」

一応あたしって礼儀正しいよね…なら草食系にだって目をつけられても…いいじゃないの…

「恋神？行きましょう？」

先輩はもうスタスタ歩きだしている

あたしは慌てて後を追いかけた

「恋神、私には好きな人がいるの」

あたしは恋神（後書き）

生徒会長登場です

もつとカッコイはずなんですが…
カッコよくしていきたいですね…

次は一気にいきます！長くしたいです！

恋神の掟（前書き）

新学期が始まり萎えてる沙茹です（笑）

皆さん私の物語を読んでくださりありがとうございます

それでは！

恋神の掟

……はい？

「だ、だから私にはず、好きな人がいるの！！」

照れた様子でもじもじしながら言う先輩

あたしのカップル成功率は今100%…え？この先輩ガチのリア充になるうとしてるわけ？

…こんな高3になりたいわ…

「こ、恋神？お、おかしいかしら？」

涙目になってくる先輩

「いえ、乙女には当然のことですから」

ニコツと営業スマイルを浮かべるあたし、そして続けて

「先輩？どなたが好きなんですか？」

次期生徒会長の好みはすぐ気になるわね…誰なのかしら？

「い、言えません…ごめんなさい、恋神」

い、言えませんですって！

さすがは怜華先輩ガードが堅すぎる…

顔に思ったことが浮かんだのか

「いや、別に信賴してないわけじゃないんだ！まだ気持ちの整…」

「あれ？花音ちゃんに副会長じゃん？」

先輩が言い訳をしようと話し始めた時、別の声が割って入った

明るい茶髪、パツチリとした目ユメハナの制服を着たあたしの一応

先輩である

「ひ、雛菊君！？」

怜華先輩が驚いて顔を赤くして言った

そう、この人は雛菊奏太先輩

めっちゃチャライ…そのチャラさは学校1だと思っ

「奏太先輩、バイトですか？」

顔を赤くしてパクパクしている怜華先輩を放置して話を進めようと

するあたしだつたけれど

「か、奏太！？…………ゴホン」

相変わらず赤いままあたし達の会話に入ってきた怜華先輩は

「こ、このバイトは学校の許可を取ってるんですかつ！？」

生徒会役員らしくビシツと言う…なぜか迫力ない…あ、怜華先輩…
ふふふ

「……………副会長堅すぎる」

「う、うるさいですね！！」

2人の会話は続いていたらしい

怜華先輩は相変わらず赤いまま…というよりもあたしここにいていいのかしら？

「花音！帰りましょう！」

先輩は伝票をつかんで立ち上がる

「お釣りはいらぬです！」

ダッシュで逃げていった…怜華先輩、お嬢様なんですかね…？

「花音ちゃん」

奏太先輩がいつの間にか隣にいた

「今日、暇？」

肩に腕をまわそうとする奏太先輩をかわしながら

「相変わらずヒドい口説き方ですね」

ニヤリと笑って言う

「相変わらず花音は鋭いな」

ニコツと笑って言う奏太先輩はもうあたしの従兄弟の奏太の顔になっていた

「副会長とはどうしたの？」

奏太が不思議そうに聞く

……………奏太には教えられない。これは恋神として君臨するには相談してくれた乙女の秘密は絶対だから…

「秘密！じゃね！奏太」

あたしはユメハナの扉を押し開けて出て行った

あたしは知らなかった…

この光景を怜華先輩が見ていたなんて…

恋神の掟（後書き）

どうでしょうか？

意外と話を盛り込みすぎました：

次は怜華の恋一番の難しい所になると思います！

頑張ります

メール、そして（前書き）

こんにちは、沙茄です

super cellの曲を弾けるようになりたいことが最近のもくひょう
うですかね？

それでは！

メール、そして

家に帰ると

「花音、お手紙きてるわよー」

とママがにつこり笑ってピンクの封筒を差し出した

「ありがとうママ、あ、ご飯になったら呼んでもらっていい？」

手紙をもらって自分の部屋に行く

「ふうー」

鞆をベッドに投げだしてあたしは制服を脱いだ。…あのワンピース

どこ置いたっけ??

「あつたあつた！」

…そろそろ掃除しなきゃいけないかしらね…あ、ケータイ見なきゃ

「新着メール 3件」

…誰かしら？

一件は茜、明日の持ち物？知らないわよ

「k a e d e - v l o v e @ k a z w e b . n e . j p」

…かえで…篠宮？

ふふっ すごい嬉しいわね

「南さん、こんにちは 篠宮楓です、たけからメアド貰った！山田とも友達みたいだしよろしく」

返信どうしようか…やっぱり普通にいくべきかしら？

「メール返信遅れてごめんm(´_`)(´m´)これからもよろしくお願
いします それからさんつけなくていいよ！(b^ー)(´_`)」
送信っ！返信が楽しみだなあ」

あともう一件は……？

「r y o u k a - s u z u k i 0 8 2 4 @ d a k o m o . n e . j
p」

怜華先輩？どうして知ってるのかしら？

「恋神：いや、南花音というらしいね。単刀直入に、雛菊と付き合っているのか？」

確かに言っただけだったかしら？

というより怜華先輩バレすぎでは？と思いつつ

「どうも、南花音です奏太とは従兄弟ですよ　なので奏太のことを応援します」

ふふっ、これでいいか

送信ボタンを押してケータイを置くと

「誰なんだろう？」

宛名をみると…

「…どうして、紗耶香…」

メール、そして（後書き）

次回は花音の過去を挟みます

楓君は男の娘って感じですよ！

読んでくださってありがとうございます

過去（前書き）

授業が始まって眠くなってきた沙茄です

ちょっと怖い感じです！（笑）

どうぞ！

過去

「…どうして、紗耶香…」

あたしは震える手で封筒を開けた

「Dear 花音

元気？さやは元気いっぱい！！

なんで今回お手紙書いたかは

…分かるよね？偽善者。

本当は花音が憎い。だってさやのダーリン奪ったんだもん。

警告しとくよ？恋神なんてやめな

人がくつつけた恋なんて簡単に壊れるから

さやは花音が死ぬまで呪うから、あなたに恋が出来ませんようにって……

From 紗耶香」

「ヤダ…」

あたしは部屋の中心にしゃがみこんだ
どんどん思い出す過去の記憶…

「花音ちゃん！」

過去のあたしは笑って振り返る

「紗耶香どーしたの？」

無邪気に聞いたあたし

「さやを鳥貝君と付き合わせてくれないかな？」

「武政と…？」

なぜかチクツと胸が痛んだ

「うん、駄目？」

「いや、いいよっ」

あたしは頑張った。

武政のタイプ

武政の好きなもの

武政のこと

あたしが武政のことをスキなんじゃないくらい聞いた
だって紗耶香が好きだから

「紗耶香……？」

いつものように校舎裏で武政のことを話そうとした時

チュッ…

紗耶香は知らない男の人とキスしていた

バサッ

紗耶香との手紙、武政の情報全て落とした

「なんだこれ？」

「ダーリン駄目！」

紗耶香が手を出した時には遅かった。

男の顔がみるみる変わる

「紗耶香…おまえ」

「ち、違う…」

泣きそうになる紗耶香

「だから嫌だったんだ…ふざけんな」

「ダーリン!!」

消えていく男

「南、てめえ許さねー」

ゾッとするような紗耶香の声

「待って…」

あたしの声は届かなかった

すでに紗耶香は見えなかった

次の日紗耶香は来なかった

でも、紗耶香の悪い噂が流れ続ける

そして、紗耶香は学校から消えた

過去（後書き）

紗耶香や笹羅って誰！？というかた
そろそろキャラ紹介を書きます…多分

では

あ、200PVこえました！
ありがとうございます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1855ba/>

恋ノ神さま 南花音

2012年1月10日21時46分発行